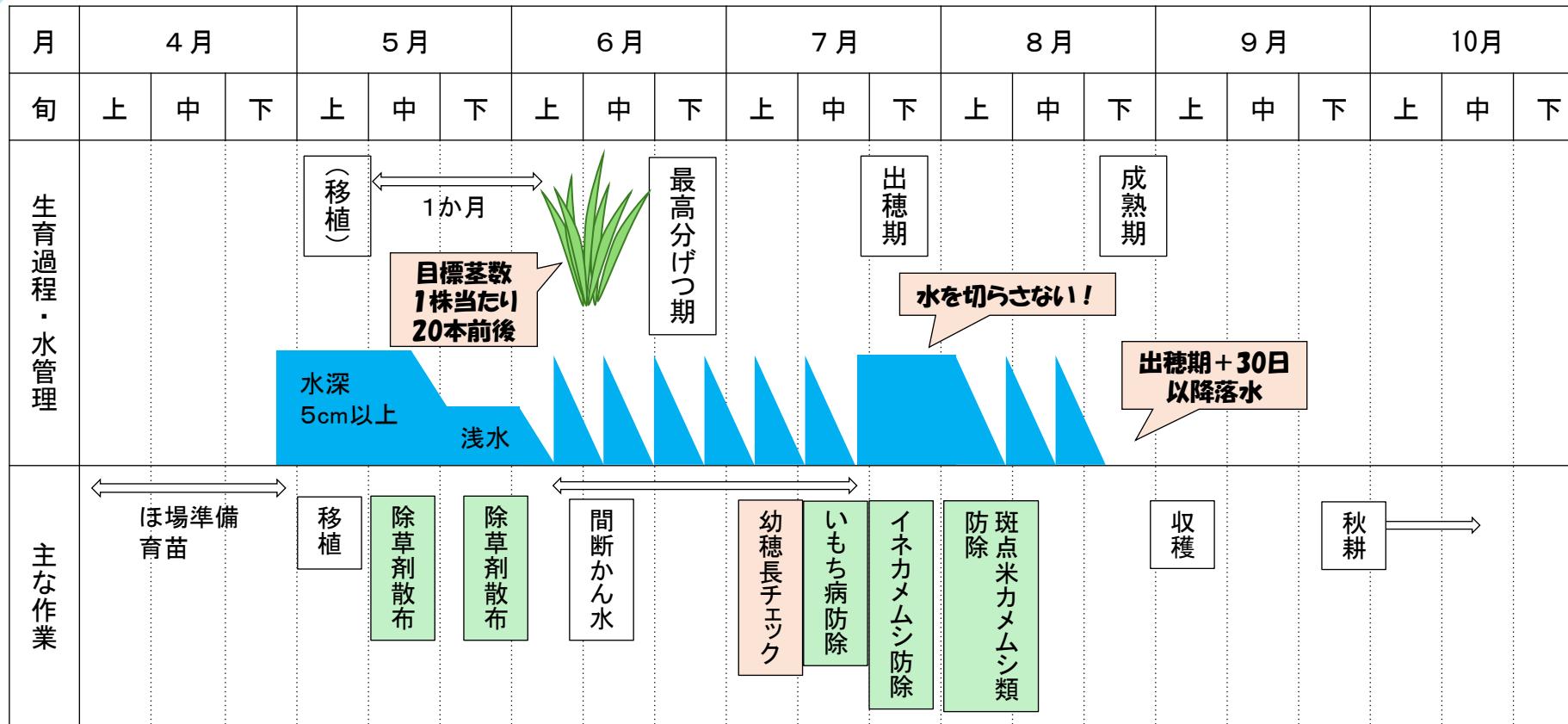


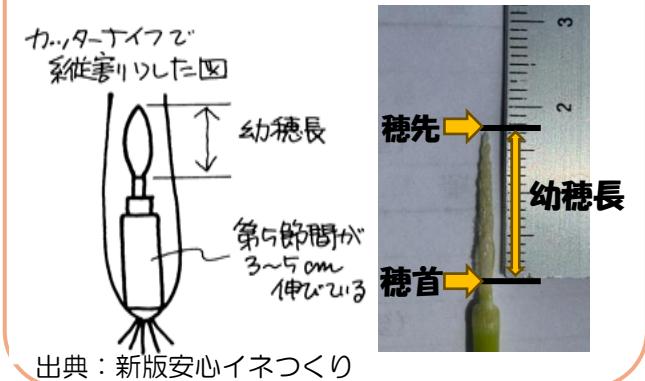
令和8年産水稻(5月上旬移植・主食用米)栽培ごよみ

令和8年2月作成
塩谷南那須農業振興事務所



出穂期予測の方法

出穂前日数	幼穂長 (mm)
30日目	0.3
25日目	0.8
20日前	4.0
15日前	17.0
10日前	73.0



1 育苗箱・床土の準備

- 前年育苗中に立枯れ症状が発生した場合、育苗箱は必ず資材消毒剤（イチバンやケミクロンG等）で消毒を行う。
- 苗立枯病の発生を予防するため、床土は必ず殺菌剤で消毒を行う。

2 浸種<じっくり(水温13℃前後で9~10日間)充分に!>

- 水温は10~15℃で行う。
- ※高水温は発芽がバラつき、低水温（10℃未満）は発芽率が低下するため、適正水温を維持する。

3 催芽<高温・短時間の催芽はNG!>

- 28~30℃の水温で18~20時間行う。
- ※温度が高いと、細菌性病害（もみ枯細菌病、褐条病等）が発生しやすくなる。

4 育苗時のハウス管理

出芽後日数		1~4日（緑化期）	5日以降
温度	日中	18~25℃（30℃以上にしない）	
	夜間	10℃	10℃（最低5℃以上）
かん水	かん水量	2日に1回（控えめに）	1日に1回
	注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 午前中に行う（夕方は行わない） かん水量は、夕方に苗箱の表面が乾く程度 曇雨天時はかん水を控える 	
換気	<ul style="list-style-type: none"> 緑化期は、苗に直接日光が当たらないように注意する 天気の良い日は早朝から換気し、日没直前にハウスを閉める 曇雨天時でもハウス内に霧が立ちこめる場合は換気を行う 		
特記事項	床土温度が38℃を超えないように管理する		

5 水管理

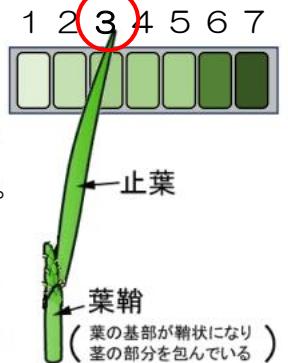
- 移植後1か月を目安に、目標茎数（1株当たり20本前後）を確保したら、間断かん水を開始する。
- 茎数過多やガス害が発生した場合は中干しを行う。
- ※中干し：田面に亀裂が入る程度
- 出穂期は最も水を必要とする時期なので、不足しないようこまめな間断かん水を行う。

6 病虫害防除<ほ場をよく観察し、適期防除の実施!>

- ほ場をよく観察し、斑点米カメムシ類を発見した場合は2回の薬剤防除を行う。
- ①乳熟初期（出穂期7~10日後）+②1回目散布後7~10日
- ※イネカメムシ発生またはクモヘリカメムシ多発生の場合は、不稔防止のため出穂期の薬剤防除を行う。

7 高温対策<コシヒカリ>

- 出穂前5日の止葉葉色がSPAD値で「34」以下、葉色板で「3」を下回った場合、出穂期を目安に速効性窒素肥料を2~3kg/10a追肥する。
- ※出穂期の葉色が薄い場合、白未熟粒や胴割粒が増加する。



8 適期収穫

- 刈取適期：帯緑色籾率10~3%
- ※実際に穂を確認する。
- 積算平均気温（出穂期翌日からの積算）：1,000~1,100℃



9 秋耕

- 土づくり効果（稲わらの早期腐熟）と病虫害防除（カメムシ類の生育場所減）のため、収穫後は速やかに秋耕を行う。
- ※イネカメムシ防除を目的とする場合は再生稲（ひこばえ）発生前（~10月中旬）までに行う。



育苗中の病害や斑点米カメムシ類対策は二次元コードを要チェック!